

学校法人 金城学園

ご挨拶

学校法人金城学園理事長
加藤 真一



金城学園は、1904(明治37)年に創設された金城遊学館を淵源とし、115年を超える歴史を刻んでいます。建学の精神に「遊学の精神の涵養」及び「良妻賢母の育成」を掲げ、また「教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。」という教育理念を旨として、一人ひとりの個性を磨く教育を推進し、今日、金城大学、金城大学短期大学部、遊学館高等学校、金城幼稚園及び金城大学附属西南幼稚園の各学校を設置する学園となっています。

金城大学は、地域の教育研究拠点となる大学を目指し、保健・医療・福祉、教育等の分野の人材の養成を行うとともに、白山市や野々市市等と包括協定を締結し、専門性を活かして地域の発展に資する活動に取り組んでいます。金城大学短期大学部は、大学ともども産官学の連携を深めつつ、地域社会に密着した教育研究活動を展開し、例えば学生リーダー組織が積極的に学科間・学外の交流活動をしています。遊学館高等学校は、文武両道を奨励して、高い人格と深い情操を育む教育を行っており、高度情報社会やグローバル社会に対応した取組も推進しています。幼稚園も併設しており、大学や短期大学との密接な連携のもとに先進的な取組を取り入れ、豊かな心を育む教育を実践しています。さらに、近年は、金城大学が台湾、ベルギー、中国(金城大学短期大学部と共同)の大学と、遊学館高等学校がフランスの私立学校と学術、教育交流の協定を締結するなど国際交流にも力を入れています。

本学園は、今後も時代の要請に応え有為な人材の育成に努めてまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

建学の精神

・ 遊学の精神の涵養

何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと。

・ 良妻賢母の育成

周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること。

教育理念

創始者

率先垂範、質素勤勉



加藤廣吉



加藤せむ



二代目 加藤二郎

教育とは云うてきかす事ではない。して見せる事でもない。している事である。



三代目 加藤 晃(現 学園長)

教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。



金城学園創成記念碑 遊学の丘

学園の創始者である加藤廣吉とその両親を偲び、また建学の精神を見つめ直す場として、2013(平成25)年6月2日、金城大学・短大敷地内に設置しました。



金城の「榎」

遊学館高等学校の中庭に屹立し、一世紀以上にわたり、金城学園を見守り続けています。

沿革

1904(明治37)年	金沢市に金城遊学館を創設
1905(明治38)年	金城女学校として認可される。
1924(大正13)年	修業年限5か年の金城高等女学校となる。
1944(昭和19)年	財団法人金城高等女学校を設立
1947(昭和22)年	学制改革により財団法人金城高等女学校に金城中学校を併設
1948(昭和23)年	財団法人金城高等学校を設置
1951(昭和26)年	学校法人金城高等学校に名称変更(組織変更)
1952(昭和27)年	金城高等学校附属幼稚園を設置
1961(昭和36)年	金城家庭専門学校を開校
1967(昭和42)年	学校法人金城高等学校を学校法人金城学園に名称変更 金城高等学校附属幼稚園を金城幼稚園に名称変更
1968(昭和43)年	金城幼稚園教育専門学校を設置
1971(昭和46)年	金城幼稚園教育専門学校を金城保育学院に名称変更
1975(昭和50)年	金城中学校、金城家庭専門学校を廃止
1976(昭和51)年	金城短期大学を開学
1977(昭和52)年	金城保育学院を廃止
1996(平成8)年	金城高等学校を男女共学とし、遊学館高等学校に名称変更
2000(平成12)年	金城大学を開学 金城短期大学を金城大学短期大学部に名称変更
2004(平成16)年	金城学園創立100周年を迎える。
2005(平成17)年	金城学園白山美術館を開館
2008(平成20)年	白山市立松任西南幼稚園の設置者を白山市から金城学園へ移管し、 金城大学附属西南幼稚園として開園
2011(平成23)年	金沢信用金庫、北陸銀行と包括協定を締結 白山市と包括協定を締結 白山市経済団体連絡協議会と産学連携包括協定を締結
2012(平成24)年	社会福祉法人金城福祉会が蝶屋保育園(現・幼保連携型認定こども園蝶屋こども園)の運営を開始
2013(平成25)年	金城学園創成記念碑「遊学の丘」を設置
2015(平成27)年	金城大学に大学院を設置 金城幼稚園を休園 野々市市と包括協定を締結
2019(平成31)年	白山石川医療企業団と総合連携に関する協定を締結



1909(明治42)年頃の木造校舎

校章「雪に白梅」

雪の結晶の中に白梅をあしらった校章は、1907(明治40)年、金城女学校の校章として決定したものです。雪深い北国で寒さに耐えながら清らかな花を咲かせる白梅のような、そんな女性を育てたいとの思いが込められたデザインでした。雪をかぶっても毅然として気高く、泰然として品格を失わず、優雅に清雅に、美しく力強く咲く白梅は、「遊学の精神」の自主自立と「良妻賢母」の善良優美のシンボルとして、100年以上を経た今もなお、金城学園の校章として生き続けています。



第3期中期計画(2021(令和3)年度～2025(令和7)年度)概要

中期ビジョン

社会の変化に対応し、地域・社会に必要とされる人材を育成する。

基本方針

教学に関する基本方針として、教育の質的向上を図りながら、地域・社会のニーズに応える教育を行い、研究や地域連携活動と併せて地域の活性化に貢献することを掲げる。

また、経営に関する基本方針としては、必要な施設設備の整備を行うとともに、安定的かつ健全な財政基盤を確立・維持し、ガバナンスの強化を図ることを掲げる。

2024(令和6)年に学園創立120周年を迎えるに当たり、中期ビジョン、基本方針の下に、更なる学園の発展を目指すものとする。

重点計画(教育研究、地域連携活動)

大学においては、社会福祉学部の改組及び国家資格取得課程の充実に取り組む。また、教養教育を充実させ、学部間連携教育・国内外の諸機関との連携協力を推進するとともに、組織的な研究活動を強化し、種々の教育活動と併せて地域の活性化に資する。

短期大学においては、各学科のコースや教育課程の再編について検討するとともに、基礎教育科目を充実させ、学科間連携教育・外部の諸機関との連携協力に取り組む。また、地域の活性化に資する産学連携、地域連携活動を推進する。

高校においては、教育の質の向上と授業のICT化に取り組む。併せて、大学・短期大学との連携や海外姉妹校との交流、進路指導を充実させる。課外活動については、強化指定部を中心とする部活動の更なる活性化や図書室の整備、学校行事の充実を図る。

西南幼稚園においては、保護者、地域のニーズに応え得る教育の推進に向けて、教育活動の体系化、大学・短期大学との連携及び点検・評価・改善のシステムを強化する。